

新年のご挨拶

一般社団法人日本病院薬剤師会
会長

木平 健治 Kenji KIHIRA



新年明けましておめでとうございます。会員の皆様方におかれましては、健やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃より日本病院薬剤師会（以下、日病薬）の運営にご理解とご協力を賜り、感謝申し上げます。

昨年を振り返ってみると、明るいニュース・話題は少なかったように感じます。強いて挙げれば、ワクチン接種が遅れ馳せながらではありますが急速に進み、最終的には8割近くの接種率となり、薬剤師も調製等で貢献できたことでしょうか。また、賛否両論のなかでオリンピックが開催されました。何れにせよ、諸手を挙げて祝うという感じではなく、やはり、コロナによるどんよりとした空気が明るさを遮った感がしてなりません。メジャーリーグで“二刀流”や“ショータイム”と騒がれた大谷翔平選手の活躍は、多くの方が、ワクワクしながら毎日ニュースを楽しみにされた明るい話題だったと思いますが、国内の出来事でなかったのが少し残念です。コロナに関連してか、じわじわと物価が上昇しています。温暖化の影響か、昨年も大規模な災害が発生し、熱海市では26名が亡くなりました。全体的には、暗い辛いニュースのほうが多かったように思います。我々の関係で最も深刻だったのは、何と云っても、医薬品の不安定供給でしょう。治療薬が入手できないことは、薬剤師にとって、また、患者にとっても最悪の事態と言わざるを得ません。薬剤師法第一条に、医薬品の供給が薬剤師の使命と明示されており、薬剤師の責任ではないにもかかわらず、現場の会員の皆様はあたかも自分の責任のように心を痛められたのではないのでしょうか。

日病薬の活動は対面形式ではできなかったものの、総会、理事会、地方連絡協議会、各種委員会、Future Pharmacist Forum、その他の研修会等、おおむね順調に実施されました。また、今年は診療報酬改定の年であり、会員の皆様が生きがいをもって働くための支えとなるよう、日病薬として要望を行っているところです。特に、病棟薬剤業務実施加算や薬剤管理指導料、医療連携に関する要望が、嬉しい結果となることを夢見ているところです。医療の質の向上のため病棟業務を一層充実し、また、医療連携を推進することにより地域包括ケアシステム等の構築に向けて、飛躍の一年とできるのではと期待しています。

今年の干支は「壬寅」だそうで、厳しい冬を越えて、冬が厳しいほど春の芽吹きは生命力に溢れ、華々しく生まれる年になるということのようです。2019年以来翻弄され続けている新型コロナウイルスの問題が解決することは、すべての方が願っておられると思います。会員の皆様は、医薬品供給の問題も解決し、診療報酬も評価されるなど、厳しい冬を抜け、明るい年になることを願っておられることと思います。

多くの課題はありますが、多様化する社会環境・医療環境のなかで、薬物療法の有効性と安全性を確保するという薬剤師の使命が果たせるよう、力を合わせて新しい年に向かいたいと思っております。

新年にあたり、会員の皆様の一層のご支援をお願い申し上げ、また、皆様のさらなるご健勝とご活躍を祈念申し上げます。